

(5) 英語

ア 個々の問題の概要及びその通過率

—評価の観点—
 表 現：表現の能力
 理 解：理解の能力
 言・文：言語や文化についての知識・理解

学習指導要領の内容	問題番号	出題のねらい	評価の観点	設定通過率 (%)	通過率 (%)
聞くこと	1	(1) How are you? に対する応答	理解	90.0	67.6
		(2) Whoseを用いた疑問文に対する応答	理解	55.0	57.0
		(3) orを用いた疑問文に対する応答	理解	50.0	63.4
	2	(1) 数字の発音の聞き分け	理解	75.0	70.6
		(2) 2人の人間の動作と状態の理解	理解	75.0	90.2
		(3) 名詞の単数・複数及び前置詞の理解	理解	70.0	86.0
		(4) 動・植物の数の聞き分け	理解	75.0	91.7
3	まとまりのある英文を聞いての概要理解	理解	50.0	65.7	
書くこと	4	(1) 適切なbe動詞を書くこと	言・文	65.0	56.3
		(2) 三人称・単数・現在形の文を書くこと	言・文	60.0	23.2
		(3) 現在進行形の文を書くこと	言・文	50.0	28.8
		(4) 過去の疑問文を書くこと	言・文	65.0	43.9
読むこと	5	(1) まとまりのある英文を読んでの要点把握	理解	70.0	55.9
		(2) まとまりのある英文を読んでの概要把握	理解	70.0	86.9
		(3) まとまりのある英文を読んでの概要把握(英問英答)	理解	60.0	66.7
	6	(1) 対話文を読んでの要点把握	理解	70.0	66.8
		(2) 対話文を読んでの詳細把握	理解	60.0	80.8
書くこと	7	(1) 対話に合う助動詞のある疑問文を書くこと	表現	65.0	62.9
		(2) 対話に合う過去進行形の文を書くこと	表現	65.0	80.3
		(3) 対話に合う命令文を書くこと	表現	65.0	54.2
読むこと	8	① 場面に合う適切な英文を選ぶこと	理解	70.0	79.8
		② 場面に合う適切な英文を選ぶこと	理解	60.0	61.7
		(2) 場面に応じた対話の流れを理解すること	理解	50.0	32.8
書くこと	9	(1) Whoを用いて日本文に合う英文を書くこと	表現	65.0	31.9
		(2) Whereを用いて日本文に合う英文を書くこと	表現	65.0	19.5
		(3) Whatを用いて日本文に合う英文を書くこと	表現	50.0	11.3
	10	指示に従って、まとまりのある英文を書くこと	表現	50.0	30.1

イ 個々の問題の教育事務所管内・地区別通過率

問題番号	問題の内容	設定 通過率	東 青 管 内			西 北 管 内				
			青森市	東郡		五所川原市	つがる市	西・北郡		
1	(1)	How are you? に対する応答	90.0	71.6	71.7	69.9	62.8	62.7	63.9	62.1
	(2)	Whoseを用いた疑問文に対する応答	55.0	66.1	66.5	60.7	57.6	61.0	58.9	53.3
	(3)	orを用いた疑問文に対する応答	50.0	66.0	66.8	55.8	59.1	57.6	59.4	60.6
2	(1)	数字の発音の聞き分け	75.0	64.3	64.5	61.2	74.6	75.4	76.9	72.3
	(2)	2人の人間の動作と状態の理解	75.0	91.0	91.4	84.5	90.9	91.6	89.1	91.2
	(3)	名詞の単数・複数及び前置詞の理解	70.0	89.2	89.4	84.0	59.4	59.4		
	(4)	動・植物の数の聞き分け	75.0	94.1	94.1	93.2	90.7	92.2	89.1	90.0
3		まとまりのある英文を聞いての概要理解	50.0	61.9	62.6	51.9	69.4	70.2	71.1	67.4
4	(1)	適切なbe動詞を書くこと	65.0	64.6	65.3	54.9	48.6	46.0	50.1	50.3
	(2)	三人称・単数・現在形の文を書くこと	60.0	24.6	25.2	16.0	24.2	25.7	23.3	23.1
	(3)	現在進行形の文を書くこと	50.0	38.3	39.3	24.8	26.1	27.0	22.5	27.3
	(4)	過去の疑問文を書くこと	65.0	59.6	60.2	51.0	32.1	32.4	36.6	28.9
5	(1)	まとまりのある英文を読んでの要点把握	70.0	56.5	56.9	51.5	59.4	59.4		
	(2)	まとまりのある英文を読んでの概要把握	70.0	88.9	89.2	85.0	78.1	78.1		
	(3)	まとまりのある英文を読んでの概要把握 (英問英答)	60.0	69.6	70.4	58.3	65.6	65.6		
6	(1)	対話文を読んでの要点把握	70.0	67.4	68.1	56.8	73.0	81.3		64.5
	(2)	対話文を読んでの詳細把握	60.0	80.6	81.0	75.2	82.3	84.8	84.4	78.4
7	(1)	対話に合う助動詞のある疑問文を書くこと	65.0	71.1	71.8	60.7	57.1	53.8	63.1	56.9
	(2)	対話に合う過去進行形の文を書くこと	65.0	84.9	85.4	77.7	81.8	84.1	82.2	79.1
	(3)	対話に合う命令文を書くこと	65.0	60.3	61.3	46.1	48.2	45.1	52.0	49.2
8	(1)	① 場面に合う適切な英文を選ぶこと	70.0	81.2	81.6	74.8	71.4	84.4		58.1
		② 場面に合う適切な英文を選ぶこと	60.0	60.5	61.1	51.5	67.3	75.0	60.0	68.7
	(2)	場面に応じた対話の流れを理解すること	50.0	33.6	33.2	40.6	25.9	29.5	20.7	25.5
9	(1)	Whoを用いて日本語に合う英文を書くこと	65.0	43.1	43.2	42.7	23.4	20.4	24.7	24.4
	(2)	Whereを用いて日本語に合う英文を書くこと	65.0	29.7	30.5	17.5	13.2	11.7	12.2	15.4
	(3)	Whatを用いて日本語に合う英文を書くこと	50.0	11.9	12.2	6.8	12.6	9.5	11.9	16.3
10		指示に従って、まとまりのある英文を書くこと	50.0	35.1	35.5	30.1	25.6	26.7	25.2	24.8
教 科 全 体			63.5	61.6	62.1	54.5	50.8	51.4	51.0	50.2

※ 斜線部分の問題については、当該地区において未習事項が含まれていたため、地区内の全中学校が未履習問題として解答しなかったものである。

(単位：%)

中 南 管 内					上 北 管 内				下 北 管 内			三 八 管 内			県全体
弘前市	黒石市	平川市	中・南郡		十和田市	三沢市	上北郡		むつ市	下北郡		八戸市	三戸郡		
67.9	67.4	71.8	69.4	64.8	66.3	70.3	73.4	59.5	59.5	60.1	57.4	68.8	69.9	64.8	67.6
49.1	53.0	41.0	49.8	38.8	51.6	56.8	50.6	48.1	44.3	46.7	35.5	61.3	62.9	55.6	57.0
62.9	61.7	70.5	62.6	61.2	61.8	65.2	62.9	58.6	57.9	57.2	60.4	65.6	65.6	65.8	63.4
69.8	71.1	71.8	66.0	64.5	72.3	77.3	74.7	67.3	68.4	70.1	62.1	74.6	77.8	63.4	70.6
90.1	91.2	88.5	91.2	85.9	90.6	92.4	92.2	88.4	84.1	85.1	80.5	90.3	90.3	90.5	90.2
74.2	75.2	73.4	72.3		84.4	86.2		83.8	70.6		70.6	86.6	87.7	85.7	86.0
91.6	91.7	93.3	90.6	90.0	91.6	93.0	93.0	89.7	84.8	85.1	83.4	91.6	91.3	92.8	91.7
58.4	60.1	56.2	53.9	56.6	69.2	71.2	75.1	64.7	68.8	67.5	73.4	70.7	72.9	63.3	65.7
58.0	59.3	60.5	52.5	53.4	47.1	55.5	48.9	39.6	43.1	46.7	30.2	59.7	62.8	49.3	56.3
18.0	21.0	18.2	9.4	10.6	21.6	26.9	19.8	18.5	17.3	19.3	10.1	28.3	32.4	14.4	23.2
32.1	35.8	25.9	26.3	25.7	20.7	24.6	19.4	18.5	15.7	16.7	12.4	26.4	26.9	24.4	28.8
45.9	47.6	45.4	40.7	42.8	32.9	37.5	27.8	31.9	22.9	23.4	21.3	45.1	43.1	52.1	43.9
53.2	53.8	50.3	56.2	50.2	73.1	84.6	75.3	65.3	50.0	41.1	62.5	55.1	59.4	53.4	55.9
85.4	85.7	85.9	81.5	86.4	91.0	95.1	89.0	89.1	77.3	78.9	75.0	85.1	82.9	85.9	86.9
63.5	65.5	59.2	61.6	58.6	74.6	87.0	80.8	64.9	45.5	46.7	43.8	66.7	70.6	65.1	66.7
66.3	67.0	64.4	66.3	64.8	75.6	87.8	71.2	69.8	57.1	55.6	59.4	63.8	73.5	60.1	66.8
79.9	80.6	79.2	77.8	78.6	80.9	84.6	80.8	78.0	78.6	79.6	75.1	81.6	83.6	74.7	80.8
64.1	66.9	64.4	55.9	56.6	52.9	56.8	54.6	48.9	50.8	50.8	50.9	66.2	67.8	61.0	62.9
76.3	78.8	76.7	71.4	68.0	77.3	81.4	77.6	74.0	71.2	69.9	75.7	82.7	83.4	80.3	80.3
50.7	52.8	49.0	46.1	46.1	46.4	53.4	46.8	40.8	44.4	45.6	40.2	61.5	64.6	51.3	54.2
78.3	79.3	74.9	76.1	79.9	91.5	97.6	93.2	87.1	71.4	70.0	73.4	77.1	81.6	75.3	79.8
53.1	54.9	45.9	51.9	52.7	74.4	80.6	80.8	70.5	59.4	56.3	65.9	70.2	76.5	61.2	61.7
35.7	34.6	36.7	36.0	40.3	32.0	34.1	39.9	26.4	24.5	23.9	26.6	35.6	36.0	34.2	32.8
38.9	41.1	40.5	42.4	24.1	15.1	18.3	11.0	15.2	20.4	20.8	18.9	31.0	29.7	34.5	31.9
22.1	24.2	15.9	26.6	15.4	14.3	20.3	11.4	11.3	6.8	7.0	5.9	17.0	16.0	20.2	19.5
11.2	13.8	5.9	9.1	6.2	9.7	13.7	9.5	6.7	5.0	5.6	3.0	12.8	14.5	7.3	11.3
30.8	33.0	24.6	33.3	24.7	25.4	29.7	24.3	22.6	18.4	19.9	13.0	32.8	34.6	26.6	30.1
56.0	57.5	54.6	54.3	51.1	51.1	55.5	51.1	47.7	45.4	45.7	44.6	57.2	57.7	55.7	56.0

ウ 内容・領域別結果の概要

内容・領域	問題数 (問)	通過率の高かった 問題(10問)	通過率の低かった 問題(10問)	各内容・領域 の通過率(%)	設定通過率 (%)
聞くこと	8	1(1)、2(1)、 2(2)、2(3)、 2(4)		72.9	67.5
読むこと	8	5(2)、6(1)、 6(2)、8(1)①	5(1)、8(2)	65.0	63.8
書くこと	11	7(2)	4(2)、4(3)、 4(4)、7(3)、 9(1)、9(2)、 9(3)、10	40.3	60.5

内容・領域別にみると、通過率の高かったのは、「聞くこと」「読むこと」である。

通過率が低かったのは、「書くこと」である。

設定通過率と比較すると、これを上回ったのは、「聞くこと」であり、同程度だったのは、「読むこと」である。また、下回ったのは「書くこと」である。

エ 評価の観点別結果の概要

評価の観点	問題数 (問)	通過率の高かった 問題(10問)	通過率の低かった 問題(10問)	各観点の 通過率(%)	設定通過率 (%)
表現の能力	7	7(2)	7(3)、9(1) 9(2)、9(3)、10	41.6	60.7
理解の能力	16	1(1)、2(1) 2(2)、2(3) 2(4)、5(2) 6(1)、6(2) 8(1)①	5(1)、8(2)	69.6	65.6
言語や文化 についての 知識・理解	4		4(2)、4(3) 4(4)	38.1	60.0

観点別にみると、通過率の高かったのは、「理解の能力」である。通過率が低かったのは、「表現の能力」と「言語や文化についての知識・理解」である。設定通過率と比較すると、これを上回ったものはなく、同程度だったのは「理解の能力」である。また下回ったのは「表現の能力」と「言語や文化についての知識・理解」である。

オ 個々の問題の主な誤答例とその原因

問題番号	通過率(%)	設定通過率(%)	主な誤答(無答を含む)例 (カッコ内の数字は、抽出した解答全体に占める誤答の割合・%)	
4	(2)	23.2	60.0	speak(29.5)、is(28.0)、speaksのつづりの間違い(4.5)
	(3)	28.8	50.0	Does(20.5)、Are(18.0)、Do(9.5)
9	(1)	31.9	65.0	girlのつづりの間違い(16.5)、疑問詞なし(9.0) 無答(7.5)
	(2)	19.5	65.0	疑問詞(Where)なし(29.0)、無答(8.5) Where were you go(7.5)
	(3)	11.3	50.0	疑問詞(What)なし(22.0)、無答(11.5) What is your father doing(7.0)
10	30.1	50.0	3文書いているが、どこかに間違いがあるもの(58.0) 1～2文のみ書いているもの(5.0)、無答(4.0)	

- 4(2)について
誤答の原因として、三人称単数現在の s が欠落している speak と解答したものが 29.5% と多かったことから、Nancy という主語が三人称であることと三人称単数現在の s が十分理解されていないことが考えられる。
- 4(3)について
誤答の原因として、Does と解答したものが 20.5% あったことから、進行形の文構造の理解が (cooking という単語に注目すれば、be 動詞がくるはずである) 不十分であったことが考えられる。また、Are と解答したのも 18.0% あったことから、your mother という主語が三人称であることの理解も不十分であったことも考えられる。
- 9(1)について
誤答の原因として、girl のつづりの間違いが 16.5% あり、発音とつづりの関係の混乱が考えられる。
- 9(2)について
誤答の原因として、疑問詞「どこへ」(Where) の欠落 (29.0%)、Where were you go ? (7.5%) といった be 動詞と一般動詞の混在した英文が見られることから、5W1H の疑問詞がしっかりと理解されていないこと、be 動詞と一般動詞のそれぞれの疑問文の作り方について十分理解がされていないことが考えられる。
- 9(3)について
誤答の原因として、疑問詞「何を」(What) の欠落 (22.0%)、What is your father doing ? (7.0%) といった進行形 (～しています) で表現していることから、5W1H の疑問詞がしっかりと理解されていないこと、現在形「～します」と進行形「～しています」といった時制の使い分けの理解が不十分であることが考えられる。
- 10について
19年度に続きまとまりのある文を書く力を見るため 3文を書く問題とした。通過率は

30.1%（昨年度24.2%）とやや上がっている。無答も4.0%（昨年度8.0%）と減り、誤答ではあったが意欲的に3文書いていたものが58.0%であった。誤答の原因として、I was study～, Noriko was play～, My father was watch～といった英文が見られたことから、be動詞と一般動詞の混在など動詞の使い方が定着していないことが考えられる。

カ 今後の指導について

内容・領域別にみた課題としては、「書くこと」であり、昨年度と同様に、基本的な文法事項と文構造（語順）の定着、5W1Hで始まる疑問文とその応答の仕方の定着及びまとまった英文を書く活動の充実が挙げられる。

新学習指導要領では、「書くこと」に関する指導事項として、自分の考えや気持ちなどが読み手に正しく伝わるように、文と文のつながりなどに注意してまとまりのある文章を書くことが新たに付け加えられている。

初歩的な英語を使って、まとまった文を書く力を育成するためには、

- ・1年生の段階から、新文型の練習時に、基本文のみを書かせるのではなく、それに関連性のある文を付け加え、2文以上書くことを習慣付ける。
- ・モデル表現を提示し、その一部を自分で考えたものに書き換えさせるなど、モデルをまねることによって、自分自身のことを表現していくことができるよう工夫する。
- ・生徒にとって興味・関心のあるテーマとしたり、書いた英文にコメントを添えたり、他の生徒に紹介するなど、生徒の「書くこと」に対する意欲を低下させないように配慮する。
- ・難しい英語表現を、既習の簡単な単語や言い回しで言い換える練習を積み重ねる。
- ・まとまりのある文章を書くための手順を指導する。

などが考えられる。

指導のポイント

〈初歩的な英語を使って、まとまりのある文章を書く力の育成〉

◆まとまりのある文章を書くための手順を指導することが重要である。

「テーマにそって、自分が表現したい内容を英語で書き出してみる。」

↓

「与えられたテーマに合うように、書き出した英文を取捨選択する。」

↓

「文の配列を考えて、個々の文を互いに関連させる」（接続詞や代名詞の活用）

○このような手順を、実際に例を示しながら指導することが必要である。

評価の観点別にみた課題としては、「表現の能力」、「言語や文化についての知識・理解」の育成があげられる。

今後の学習指導においては、「表現する意欲」を高めることに配慮しながら、基礎的・基本的な語彙や文法事項をコミュニケーション活動を通して繰り返し指導していくことが大切である。その際、既習事項を複数組み合わせで行える活動や四領域を関連付けた活動を工夫するなど、運用できる知識を身に付けていくことで、表現力を高めていくことが大切である。

個々の問題の誤答傾向からみた課題としては、三人称単数現在のs、5W1Hの疑問詞、be動詞と一般動詞の使い分け、時制についての理解が不十分であることが挙げられる。

今後の学習指導においては、形だけに注目した指導になるのではなく、具体的な場面設定を工夫し、意味・内容を伝える活動を通して、何度も繰り返して指導することで定着を図る必要がある。

指導例

Whatなどの疑問詞を含む疑問文の語順についての定着

- (1) What **名詞** を含む文を使って、「友達の好きなもの」と題したインタビュー活動を生徒同士で行わせる。

例 1)

S 1 : Do you like sports ?

S 2 : Yes, I do.

S 1 : What **sports** do you like best ?

S 2 : I like soccer best.

例 2)

S 3 : Do you like sports ?

S 4 : No, I don't. I like music.

S 3 : What **music** do you like best ?

S 4 : I like popular music best.

- (2) 並んだ単語カードを視覚的にとらえ、疑問詞が入ったときの正しい語順を生徒の気付きから整理し、次の活動へつなげる。

ア **sports** **do** **?** **like** **you** → Do you like sports?

イ **like** **sports** **do** **?** **what** **you** → What sports do you like ?

設定通過率との比較からみた課題としては、まとまりのある英文を読んで要点を把握する力の伸長が挙げられる。内容・領域別にみると、「読むこと」にかかわる問題8問のうち3問が設定通過率を下回っている。特に、新傾向の問題であり、場面に応じた対話の流れを理解する問題である **8**(2)では、設定通過率を17.2%あまり下回り、通過率も32.8%と低いものとなった。これは、文の前後関係を理解しながら読み進める力が不足していることが要因と考えられる。

読解においては、単語の逐語訳から概要把握にもっていくのではなく、教師から与えられた、あるいは生徒自身もっている背景的知識と英文からの情報を統合することによって概要を把握し、必要に応じて単語の意味や文法事項にも着目させ、概要理解から詳細理解へと段階を踏む指導が必要である。

指導例

〈対話分を読んで、要点を把握する力の育成〉

- ◆大切な部分に下線をつけたり、読み取った内容を表にまとめて整理したりするタスクを与え、読みのプロセスの助けとなるような指導が大切です。

Mike : What do you do in your free time ?	(1)	・自分の趣味 ・将来の夢 ・休みの過ごし方 ・食べ物	
Ken : I usually play soccer. But on Saturday night, I watch a soccer game on TV. How about you ?		ふだん	土曜日
Mike : I usually listen to music. On Saturday and Sunday I play the guitar. I like watching a soccer game, so let's go to see the game next Sunday ?		Mike	
Ken : Oh, really ? That's a good idea.	(2)	Ken	
(1) 何について話しているか質問する。(概要把握) (2) ポイントを表にまとめながら読ませる。(詳細把握) (3) マイクとケンは日曜日に何をしようか質問する。(要点把握・発展)	(3)		

質問紙調査の結果によると、「英語の勉強が好きだ」という質問に対して、「そう思う」、「どちらかといえばそう思う」と答えた生徒の割合は合わせて49.6%である。また、「英語の授業がどの程度分かりますか」という質問に対して、「よく分かる」「だいたい分かる」と答えた生徒の割合は合わせて48.3%であり、両方とも半数以下である。

全体の70.5%の生徒が「英語の勉強は大切である」と答えているので、生徒の英語に対する興味・関心を高めながら、学習のめあてをしっかり把握させ、繰り返し練習などにより定着を図り、実際的な言語の使用場面で運用させ、最後にまとめをきちんと行い、生徒が成就感を味わえる「分かる授業」を展開することが必要である。

キ まとめ

「聞くこと」、「読むこと」については、おおむね良好である。ただし、まとまりのある英文を読んで要点を把握したり、流れを理解したりすることについては、やや不十分な点が見られる。「書くこと」については、不十分な点が見られる。特に、複数の文を書く力が十分ではないという課題が挙げられる。

今後は、「書くこと」の指導について、正しい語順や語法を用いて書くことに留意し、ある程度まとまった内容について書く活動を充実させることが必要である。

その際、繰り返して活動をする中で、生徒の「気付き」を大切にし、最初から正確さを求めず、段階を追って個々の生徒に適切さや正確さが身につくように指導することが大切である。

「読むこと」については、まとまった内容の英文を黙読したり、音読したりする活動を充実させることが大切である。

その際、単に英文の意味が分かればいだけでなく、文脈を考えて読む活動や何が要点なのかを考えて読む活動をするなど、目的のある読解の活動にするための工夫が必要である。

また、各領域の指導の際には、四領域の関連とバランスに配慮した言語活動を行うことが大切である。

さらに、平成21年度から新小学校学習指導要領の移行期間となることから、中学校では、外国語活動の趣旨を踏まえて、小学校と連携をとりながら指導内容を把握し、中学校英語への円滑な接続に配慮することも必要である。